

廃棄うどん有効活用

循環コンソシアム バイオ燃料商用化

【高松】高松市で廃棄うどんの効果的活用に取り組み、うどんまるごと循環コンソシアム（高松市）は、うどん店で余った廃棄うどんを発酵させて、バイオエタノールとメタンガスを取り出すプロジェクトの商用化を目指す方針を決めた。2012年から市内製麺業者を中心に実証してきたが、採算が取れると判断した。プラントの運営管理を担当している、ちよ

だ製作所（同）の池津英二社長は「バイオエタノールの燃料化からバイオガスの発電までプラント

トータルで採算性がとれるところまで来ている」としており、うどん液肥の効果的活用方法も検討する。「今後も会員のアイデアをもとに実用化を目指す」（角田富雄運営委員会会長）方針だ。